

Q1) 海外市場の第4四半期売上高が計画に比べ増加しましたが、事業環境等に変化があったのでしょうか？

A1) 2010年3月期の海外市場売上高は、250億円の計画に対して実績は287億12百万円となり、約37億円のプラスとなりました。第4四半期の主な増収要因としては、1つ目が中国市場での売上増加です。中国の金融機関向けに大口需要があり、業績に貢献しました。2つ目は、OEM製品の需要回復です。金融危機以降しばらく低迷しておりましたが、第4四半期から拡大傾向にあります。3つ目は、アメリカやヨーロッパでの業績が予想以上に良かったことです。なお、海外市場の2011年3月期の売上高は、320億円を予想しております。

Q2) 今期、遊技市場は減収を予想していますが、事業環境を教えてください。

A2) 遊技市場は、昨年より需要が拡大している低貸玉営業に対応したカードユニットの導入が一巡してきており、また、全国のホール店舗数につきましては、昨年末で約12,600店舗と、減少傾向には下げ止まり感が見られるものの、現在も減少が続いております。今期の計画は、これら市場環境を考慮したものとなっております。

Q3) 昨年7月に中国にある光栄電子工業の第二工場が稼働しましたが、海外・生産調達比率があまり増えていない要因を教えてください。また、説明資料のP.21に今後の取り組みとして「生産性20%アップ」とありますが、損益計算書上でどのくらいの効果が見込まれますか。

A3) 中国の第二工場が下期から本格的に生産を開始しました。また、中国での部品調達拠点を活用した調達を進めた結果、海外生産・調達比率が2009年3月期に比べ3%増加しました。今後も海外生産・調達の拡大に取り組み、2012年3月期に30%を目指してまいります。また、今後、生産性アップやコストダウンに取り組むことによる効果ですが、今期は原価率が前期比で1%低下する見込みです。

Q4) 欧州地域の市場環境について教えてください。

A4) 欧州は、一昨年からの金融危機の影響が一番大きく、立ち直りが一番遅い市場と認識しております。最近もギリシャの経済悪化などもあり、厳しい状況が続いております。今期、期待できる案件と致しましては、ATMの普及に伴い需要の拡大が見込まれる紙幣整理機や、ATMメーカーにOEM供給しているATM用紙幣入金ユニット等があります。

Q5) 今期の営業利益について、損益増減分析をお願いします。

A5) 2010年度は前年度比で営業利益が23億円増加する予想をしております。その要因と致しましては、売上高が99億円増加することにより36億円の増益、加えて原価率が1%低下することにより14億円の増益となります。しかし、販売費及び一般管理費が27億円増加するため、差し引き営業利益は23億円の増益と予想しております。

Q6) 販売費及び一般管理費は 27 億円も増加しますか？

A6) 経費関係につきましては、販売増に伴う経費の増加を予想しております。今年度も引き続き経費削減活動等により利益の創出を目指します。

Q7) 原材料高騰の影響はありますか？

A7) 原材料高騰の影響と致しましては、まず、鋼材(鉄板)の値上げ要求の影響が今期は 1~2 億円程度と予測しております。また、基板等の電気部品につきましても、3、4 ヶ月前から入手しにくい状況が続いていますが、年間の必要量は確保しておりますので、生産に影響が及ぶ恐れはありません。

Q8) コンビニエンスストアに対するレジつり銭機の商談状況について、教えてください。

A8) コンビニエンスストアは全国統一オペレーションのため、都心部と地方で投資対効果が合わないことが、未導入の主な要因と分析しております。引き続き営業活動を強化してまいります。

Q9) 中国市場における売上拡大の要因を教えてください。

A9) 主に紙幣整理機の売上が拡大したことによるものです。中国では、ATM 台数の増加に伴い、紙幣装填用に、紙幣整理機の需要が非常に高まっております。